

皆さんはアイヌの言葉や歌に触れたことがありますか。これから流れる歌を聴いてみてください。

(アイヌの子守歌「60のゆりかご」)

これはアイヌの子守歌です。こんな内容が歌われています。
雲の空を通り抜け、星の空を通り抜け、天の上ではきれいな小川が流れていて、大きな金の家の中で神様が六十の揺りかごを揺らしている。揺りかごの赤ちゃんたちが一斉に泣く声がこの世界に降ってくる。そこから「眠り」が生まれる。
幻想的な歌声に乗って、「赤ちゃんにスヤスヤと眠って欲しい」と願うアイヌのお母さんの思いが伝わってきますね。

この歌のように、アイヌには独自の文化や歴史があります。皆さんご存じの「リュック」や「トナカイ」といった動物の名前はアイヌ語から来ています。また「静かな川」という意味の「門別」「飲み水のある沢」という意味の「稚内」など、北海道や東北地方には、アイヌ語に由来する地名が多く残されています。

もちろん言葉や歌だけでなく、民族衣装、伝統舞踊、伝統儀式などアイヌの人々は先代々、豊かな文化を受け継いできました。一九九七年には、アイヌの人々の民族としての誇りが尊重される社会を目指し、「アイヌ文化振興法」が制定されました。また、

二〇〇八年には、国会において「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が全会一致で採択されました。それと並行して、アイヌ語やアイヌの伝統文化を受け継いでいく活動も近年、盛んになっています。

東京オリンピック・パラリンピックが開催される二〇二〇年に、北海道白老町に設置予定の「民族共生の象徴となる空間」に、国立アイヌ民族博物館が置かれるようになります。

この機会に皆さんもアイヌの人々の、文化や歴史に触れてみましょう。

今日は、アイヌのお話アニメ「オルシペ スウオプ」から、川上容子さんの歌で「60のゆりかご」レホッネ シンタ」を、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構の協力で、お届けしました。

では、また

